

活動報告書

報告者氏名：高橋信行

所属：高等部

記録日： H25 年 2 月 13 日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

高等部本科保健医療科 1 年 / 52 才

・ 障害名

視覚障害(ロービジョン)

・ 障害と困難の内容

眼疾患:網膜色素変性症

近見視力:右 0.2 左 0.03

視野障害:両眼とも求心性視野狭窄(保有視野約 5°)

羞明:あり

色覚異常:なし

その他:偏光・矯正眼鏡着用

【活動目的】

・ 当初のねらい

①求心性視野狭窄、視力低下、羞明といった生徒の視覚特性を踏まえて、iPad の表示設定を行った上で、トレーニングを行って、iPad をスムーズに操作できるようになる。

②あん摩実技の動画を撮影し、手技データベースを作成して実技練習に役立てる。

③FaceBook にアクセスし、社会とのコミュニケーションを図れるようになる。

・ 実施期間

① は 2 時間

② は 4 時間

③ は 2 時間

・ 実施者

高橋信行

・ 実施者と対象児の関係

実施者は対象者の教科「情報」およびあん摩実習の担当教員

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

生徒は、これまでノートパソコンを使用していたが、視野障害のため、マウスポインタを発見しにくく、その結果、マウス操作に支障があった。

あん摩実習においては、かさばることを理由に、実習室にノートパソコンを持ち込、使用することを、ためらっていた。

・活動の具体的内容

【視覚特性に応じた iPad のインターフェースの設定および操作トレーニング】

羞明に対しては、「黒地に白」機能を用い、白文字黒背景にすることで、まぶしさによる苦痛を軽減し、コントラストポラリティ効果による読み速度の向上を図った。

ズーム機能を用い、場面に応じて、最適な文字サイズで表示させた。

【活動】

a) あん摩実習室において、iPad を用いて、教師の行う模範施術を録画し、あん摩術式データベースを作成した。

b) あん摩実習室において、iPad と大型液晶 TV(50 インチ)をVGAアダプタを用いて接続し、施術練習場面を映して、術者の立位置、姿勢、施術手の動き、固定手の位置などの確認を行いながら実技練習を行った。

c) iPad を用いて、FaceBook にアクセスし、友人を検索したり、メッセージを送信したりした。

使用したアプリ：標準のカメラアプリと写真アプリ

・対象児（群）の事後の変化

iPad をスムーズに操作できるようになった。

iPad はかさばらないため、実技実習室に iPad を持ち込、活用するようになった。

あん摩実技の各手技が上達するとともに、術式の順番を覚えることができた。

iPad を使って、FaceBook その他のページにアクセスし、積極的に社会とコミュニケーションを図るようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

iPad の画面を直接、指でタップする操作は、マウスポインタを探す必要がないので、視野障害による支障が少ない。

iPad の画面に描画されたキーボードを用いての入力は、ノート PC のタッチタイピングに比較して、パフォーマンスがかなり低下する。

羞明対策として、「黒地に白」の表示にすると、コントラストポラリティ効果により、読字速度は向上するものの、写真などもモノクロ反転表示されるため、写真を楽しむことができない。

実習室に iPad を持ち込み、様々なデバイスと結合することで、iPad を活用した授業の可能性がさらに広がると思われる。

- ・エビデンス（具体的数値など）

特になし

- ・その他エピソード（画像などを含めて）



写真1 保健理療実習(あん摩実技)において、iPadで撮影しライブラリ化した映像をiPadに接続した大型液晶TVに映して、実技練習を行っている様子

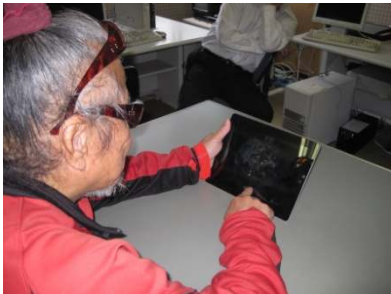


写真2 ロービジョン生徒がiPadを使って拡大表示しながら、FaceBookにアクセスする様子。



写真3 3本指でタップし、ズーム機能によって見やすい大きさに拡大する様子。